洛和会音羽病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾患および手術を起因とする疼痛・緩和医療なのど領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本専門研修プログラムは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

本研修プログラムでは、地域医療に特化した連携施設での研修を特徴とする。研修終了後はキャリアについて専攻医と相談した上で本人のキャリアを尊重した進路・働き方を支援する。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の前半2年間は、洛和会音羽病院で研修を行う。この期間は手術室に専従し、緊急手術を含めた手術麻酔の基礎を習得していく。
- ３年目以降は専攻医の希望、キャリアに合わせた研修を共に決定していく。連携施設は京都府内では京都府立医科大学付属病院（ペインクリニックや集中治療ローテーション可)、京都第一赤十字病院、宇治徳洲会病院、県外では

済生会滋賀県病院、米森病院（鹿児島県）から選択できる。

- 院内では緩和ケア化を選択可能。希望があれば救急科とも交渉していく。
- 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるようローテーションを構築する。

研修実施計画

年間ローテーション表（例）

	1年目	2年目	3年目	4年目
A	洛和会音羽病院	洛和会音羽病院	連携病院など	相談後に決定

週間予定表

洛和会音羽病院の例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	休み	手術室	手術室	休み
午後	手術室	手術室	手術室	休み	手術室	手術室	休み
時間外			オンコール				

4. 研修施設の指導体制

◉専門研修基幹施設

◎洛和会音羽病院

研修プログラム統括責任者：大西 和宏

専門研修指導医：

大西 和宏（産科麻酔・麻酔）
小川 理恵子（麻酔）
篠原 慶子（麻酔）
高田 久美（麻酔）
谷 美登利（麻酔）
原田 秋穂（緩和）
細川 康二（集中治療・麻酔）
山代 亜紀子（緩和）

研修認定病院（認定病院番号　693）

特徴：京都市山科区内で中心的な役割を果たす病院。

三次救急を担う救急救命センターかつ災害拠点病院であり、緊急手術症例も含めた多様な症例を十分経験できます。

区域麻酔を積極的に行っており、神経ブロックに関しては認定インストラクターも在籍しています。
また、2024年度より無痛分娩の提供を開始しています。
今後予想されるニーズの増加に備え、産科麻酔チームの立ち上げを視野に運用を検討しています。
この他、術後疼痛管理チームも運用を拡大中です。
特定行為看護師や診療看護師、管理チーム薬剤師とのワークシェアリングを行いつつ、術後管理の質の向上を図っています。
院内の研修先としては緩和ケア科のローテーションも選択可能です。

◉専門研修連携施設A

◎京都府立医科大学附属病院

研修プログラム統括責任者：天谷 文昌

専門研修指導医：

天谷 文昌（麻酔・ペインクリニック・緩和医療）
小尾口 邦彦（集中治療）
石井 祥代（麻酔）
内藤 慶史（麻酔）
飯田 淳（麻酔）
早瀬 一馬（麻酔・ペインクリニック・緩和医療）
松田 愛（麻酔・集中治療）
木下 真央（麻酔）
山北 俊介（麻酔）
井上 美帆（麻酔・集中治療）
谷口 彩乃（ペインクリニック・緩和医療）
前田 知香（麻酔・ペインクリニック・緩和医療）
山田 知見（麻酔）
堀井 靖彦（麻酔）
松岡 豊（麻酔・ペインクリニック・緩和医療）
永井 義浩（ペインクリニック・緩和医療）
井上 敬太（麻酔・集中治療）
仲宗根 ありさ（ペインクリニック・緩和医療）
大屋 里奈（ペインクリニック・緩和医療）
平川 由佳（ペインクリニック・緩和医療）
松尾 佳那子（ペインクリニック・緩和医療）
越田 晶子（ペインクリニック・緩和医療）

専門医：
北口 菖子（麻酔・集中治療）
矢持 祥子（麻酔）
高橋 裕也（麻酔）
藤田 怜（麻酔）
小川 達也（ペインクリニック・緩和医療）
認定病院番号： 18
特徴：集中治療、ペインクリニックのローテーション可能

◎京都第一赤十字病院
研修プログラム統括責任者：坂口 雅洋
専門研修指導医：
阪口 雅洋（麻酔・集中治療）
芦田 ひろみ（麻酔・集中治療）
影山 京子（麻酔）
山﨑 正記（集中治療）
稲垣 優子（麻酔）
三原 聡仁（麻酔）
河合 直史（麻酔）
川口 顕（麻酔）
専門医：
串本 洸輔（麻酔・集中治療）
認定病院番号：154
特徴：救命救急センター、総合周産期母子総合医療センターを擁する。
心臓麻酔、産科麻酔、救急手術の麻酔など、豊富な症例経験。
集中治療のローテーション可能。

◎宇治徳洲会病院
研修プログラム統括責任者：竹田 智浩
専門研修指導医：
竹田 智浩（麻酔）
槇尾 真理（麻酔）
上田 陽子（麻酔）
佐竹 早紀子（麻酔）
福島 弘子（麻酔）

認定病院番号：1258
特徴：当院は高度救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、脳血管センター（１次脳卒中センターのコア施設）の指定を受けております。緊急手術も多く、特に京都府南部地域で心臓大血管手術管理の件数が最も多いです。
心臓センター、バースセンター、ブレストセンター、外傷センター、関節センター、脊椎センター、四肢接合センターを設立。
ハイブリッドER、重度熱傷処置室、中毒分析装置などの設備も整えております。
その他、ロボット手術（ダビィンチ・HUGO)、造血管細胞移植を開始。
麻酔手技については硬膜外ブロックをはじめとした神経ブロック症例も豊富に研修ができます。
手術の麻酔管理以外に、ペインクリニック（認定施設）の研修も可能です。
サブスペシャリティーは心臓血管麻酔専門医、集中治療専門医取得が可能です。

◎済生会滋賀県病院

研修プログラム統括責任者：加藤　秀哉
専門研修指導医
　加藤　秀哉（麻酔）
　西脇　侑子（麻酔）
　権　哲（緩和ケア・ペインクリニック）
　今里　絵梨香（麻酔）

認定病院番号：1094
特徴：滋賀県栗東市にある.地域医療支援病院の承認を受けるほか、臨床研修病院や災害拠点病院などの指定を受けている。

◎米盛病院

研修プログラム統括責任者：岩永　康之
専門研修指導医：
　岩永　康之（麻酔）
　門田　善民（麻酔）
　柏田　政利（麻酔）
　松尾　秀樹（麻酔）
　冨永　健二（麻酔）
　谷口　淳一郎（麻酔）
　小野寺　悠（麻酔）

認定病院番号：1120
特徴：整形外科の高度専門治療と救急医療(外傷系、外科系を主とする)症例を多く経験することができ、脳神経外科や心臓血管外科の症例なども幅広く経験 することができる。呼吸循環管理、超音波ガイド下神経ブロック、硬膜外麻酔、脊髄クモ膜下麻酔などの豊富な症例をはじめ、人工心肺の症例も経験することができる。また、ラーニングセンターを併設しており、シミュレーターを用いたトレーニング行うことができる。蘇生・外傷トレーニングコースを開催しており、コース受講やインストラクター取得も可能である。

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により期限までに志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは洛和会音羽病院website、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

洛和会音羽病院　麻酔科　大西和宏
京都市山科区音羽珍事町 2
TEL　075-593-4111
E-mail　otowamasui@gmail.com

Website：
http://www.rakuwa.or.jp/otowa/dr_recruit/senior-resident/otowa-masuika-senmon/

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

1）十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
2）刻々と変わる臨床現場における適切な臨床的判断能力および問題解決能力
3）医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
4）常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②　麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料「**麻酔科専攻医研修マニュアル**」に定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する.

③　麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識・技能・態度を備えるために、別途資料「**麻酔科専攻医研修マニュアル**」に定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

7. 専門研修方法

別途資料「**麻酔科専攻医研修マニュアル**」に定められた１）臨床現場での学習、２）臨床現場を離れた学習、３）自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する。

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA Ⅰ～Ⅱの患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修２年目

１年目で修得した技能・知識をさらに発展させ、ASA Ⅲの患者の周術期管理や ASA Ⅰ～Ⅱの緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと安全に行うことができる。

専門研修３年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもとで安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する.

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして患者の安全を守ることができる。

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットによるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修 4 年次の最終月に、専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットをもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

①　専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う 6 ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して 2 年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して 2 年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない．ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める。

②　専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については。専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③　研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修フロクラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの基幹病院である洛和会音羽病院は地域医療（京都市山科区）の中核病院としての役割を担っている医療機関である。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

14.専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなる。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮する。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導する。